

---

## 活動紹介

---

## 活動紹介

### へいじろう編集委員より

地域医療連携室 坂口 健

年報誌『飛魚』の小型版として、年に4回広報誌『へいじろう』を発刊しております。平成19年6月1日の創刊号から12年、令和元年を迎えた5月1日に49号目を発刊しました。院内講演会・院内部活紹介・新入職員紹介・各科診療予定・患者様から頂いた短歌・詩など、その時々様々な記事を掲載しています。

より地域に密着した医療機関を目指すこと、そして島民の皆様はもちろんのこと、島外在住の皆様にも当院をもっともっと知って頂くことを常に意識しながら、活きの良い「へいじろう」の如く、より新鮮な情報を皆様に発信できるように、これからも取り組んでいきます。

※「広報誌へいじろう」は、当院ホームページよりご覧いただけます。

#### 【編集委員】

貴島 知世(リハビリテーション室)

當房 紀人(リハビリテーション室)

加世田 和博(地域医療連携室)

坂口 健(地域医療連携室)



第46号



第47号



第48号



第49号

## 活動紹介

### 種子島鉄砲祭り

リハビリテーション室 作業療法士 吉田 文香

平成30年8月19日日曜日、雨雲一つない夏空の下、第49回種子島鉄砲祭りが開催されました。日差しが照りつける猛暑の中、お祭りに参加された団体の方々や小中高生の祭囃子に合わせた元気な掛け声が響き渡りました。

種子島鉄砲祭りの由来は、1543年(天文12年8月25日)ポルトガルより種子島へ鉄砲が伝来した歴史のお祝いとして毎年夏に開催されております。お祭りは1日を通して、太鼓山、子ども山、団体手踊り、南蛮行列、演芸大会などが行われ、お祭りの締めくくりには満天の星空に花火が打ち上げられる花火大会が催されます。

入職して初めてこの種子島鉄砲祭りの手踊りに種子島医療センターの職員の皆様とともに参加させて頂きました。今年は法人全体で総勢約80名での参加となりました。「義順顕彰会 種子島医療センター」と背中に大きく書かれた法被に手を通し、頭には生まれて初めて、藁で作られた傘を被りました。被りなれない傘をお互いに被せ合いながら手踊りの開始を待ちました。手踊りには私達の法人以外にも10団体ほど参加され、予想以上の人数にとっても驚きました。また、お祭りを見にこられた方もたくさんいらっしゃり、種子島でのこのお祭りの規模の大きさを実感しました。正直なところ手踊りに対する自信がなかったのもあり少し緊張しましたが、お祭りの賑やかな雰囲気が緊張をほぐし、わくわくとした気持ちへと変化させてくれました。

手踊り団体の行列はノリの良い種子島の民謡に合わせて踊りながら街の中を歩いて行きます。お祭りの前の日に何度か手踊りの練習に参加しましたが、なかなか覚えられず先輩方の見よう見真似で踊りました。また、学生団体の手踊りと民謡に合わせた掛け声もありなんとか踊りを形に出来ました。初めこそ必死に踊りましたが、お祭りの雰囲気に飲まれてだんだんと楽しくなっていく周囲の人と笑いながら楽しく踊ることができました。道中、猛暑の中、梅干しやお茶などのありがたい差し入れや、「頑張れー！」との声援など地域の方々の優しさを感じました。また、関わりのあった患者様やその家族様より職員へ挨拶や声掛けを下さり、またそれに対して駆け寄って返している職員の様子も幾度か見られ、病院と地域の方々との繋がりを感じ取ることもできました。自分自身も、病院理念である「島民の皆様へ愛され信頼される病院」を自覚し、少しでも種子島の島民の皆様へ貢献できるよう精進していきたいと思う体験でした。



## 活動紹介

### 種子島医療センターサーフィン部(Tanegashima medicalcenter Surfing Club:TSC)

リハビリテーション室 理学療法士 水上 龍之介

私達TSCは種子島医療センター職員約30名で活動しており部員はドクター、看護師、リハビリスタッフ、介護士等医療にかかわる様々な職種で構成されています。

種子島は太平洋・東シナ海に面し、リーフ・ビーチと多彩な地形からなる様々なポイントがあり、ほぼ毎日サーフィンが可能な環境です。また、ローカルサーファーの方も温かく、混雑する事もほとんどないので、島ならではのゆったりとしたサーフィンライフが楽しめます。2020年に開催される東京オリンピックより、サーフィンは正式種目となったこともあり、TV・雑誌で取り上げられることも増えてきました。最近のニュースでは種子島、種子島医療センター、サーフィンを題材とした映画(ライフ・オン・ザ・ロングボード 2nd Wave)の撮影が行われ、より一層盛り上がりを見せている所です。

私はリハビリテーション室に所属しており、8時30より業務が始まりますが、業務前(夏場は朝5時頃)に海へ行き、サーフィンを楽しんでから仕事に励んでいます。朝から良い波に乗れた時、美しい朝日を見た時は晴れやかな気分で仕事が出来ています。業務終了後も日が暮れるまで海に入り、次の日の業務の活力となっています。サーフィン→仕事→サーフィンという1日の流れはTSCメンバー皆同じなので、海に行けば誰かがいて、一緒に充実した時間を共有できます。仕事は休みの日は波情報の連絡が飛び交い、その日のベストポイントをすぐに見つけることが出来ます。私の地元である熊本では、最寄りのサーフポイントまで片道、車で3時間かかる距離ですが、種子島は当院から一番近いポイントは10分程度で行くことが出来るため、毎日仕事があるときも海に入れるこの環境は私にとっては天国のような職場だなあと感じています。

TSCメンバーは田上寛容理事長を筆頭に様々な職種の職員が在籍しているため、プライベートでの繋がりはもちろんですが、仕事をする上でも職種の垣根を越えた繋がりが出来ていると感じています。また、種子島出身の人だけではなく、日本各地から仕事・サーフィンを目的に集まってきているメンバーもいるため、離島での生活や仕事に不安を抱えて来た私でしたが、すぐに馴染むことが出来ました。

サーフィンだけではなく、海が好きな方は種子島での生活はとても充実したものになると思います。仕事・サーフィンを両立した生活を私達TSCと一緒に送ってみませんか！？メンバー一同新しい仲間と出会えることを楽しみにしています！



## 活動紹介

### 第28回 種子島医療センター杯 ジュニアバレーボール大会

2階看護師 赤木 秀晃

第28回種子島医療センター杯ジュニアバレーボール大会を、平成30年9月に西之表市民体育館・榕城小学校で開催しました。今大会も西之表・中種子・南種子、屋久島から多くの参加がありました。

大会当日は曇りでしたが、残暑が残り最高気温は29.4度でじめっとした環境での試合でした。そんな環境の中でも、子供たちは元気な掛け声で準備運動やストレッチをしていました。私はレギュラーパートの運営係で試合を観戦していました。小学生とは思えない白熱した試合に目を奪われました。何とかつないだボールを落とすまいとチームみんなでボールに食らいついていく姿に感動しました。また、白熱していたのはコート内の選手だけでなく、ベンチの選手をはじめ監督・コーチ・各チームの応援団(保護者)も大きな声援を送り、選手たちと一緒に一球入魂していました。午前9時過ぎに開始した試合は全試合が終了するころには午後6時頃でしたが、誰一人大きな怪我をすることなく大会を終えることができました。

試合結果はレギュラーパートでは、優勝が伊関、準優勝は榕城女子Aでした。チャレンジパートでは、優勝が安房B、準優勝が中平Bでした。

前大会での試合時間が延長し決勝を行うことが出来なかった反省を踏まえ、レギュラーパートとチャレンジパートの会場を2カ所に分けることで決勝まで行うことができ一安心でした。

最後に、今回の大会にご協力いただきました役員の方々をはじめ、審判やスタッフの方々、ありがとうございました。次回の大会も成功できるように取り組んでいきたいと思えます。

## 活動紹介

### 種子島医療センター ゴルフ部紹介

総務課長兼広報企画課長 飯田 雄治

当院ゴルフ部の活動状況

平成29年5月に第1回種子島医療センター杯ゴルフコンペを開催し、平成31年4月までの2年間に6回開催致しました。

部員数は、15名ほどで、年間に3回のコンペ開催を目標に活動しています。2年に一度の職員旅行では、ゴルフ部の職員を中心に鹿児島県内のゴルフ場を2コースラウンドして職員間の親睦を深めています。

参加者は、医師・看護師・検査技師・事務職員など職種も様々ですが、鹿児島より診療で来て頂いている先生方にも参加して頂き、日々の仕事の忙しさを忘れて1日中、青々した芝の上を歩き楽しくプレーし、日頃の運動不足の解消も兼ねています。時折、珍プレーで笑いあり、ミスショットで悔しがる顔ありで、人間観察をするととても面白いです。ゴルフは、紳士のスポーツと言われますが、性格がそのまま出る競技でもあり、自分がこれまでにに出合ったスポーツ競技の中で、一番奥の深いスポーツだと感じています。

平成31年4月に開催した平成最後のコンペは、種子島医療センター職員・せいざん病院・種子島産婦人科医院・熊毛地区消防組合・わらび苑等、当院の関連施設からも参加いただき盛大に開催されました。

平成最後の優勝を高尾病院長が飾り、顔が笑みで緩み大変うれしそうでした。終了後の懇親会では、関連施設の担当者間でのいろいろな話などで大いに盛り上がり楽しいお酒を飲み、次回開催を楽しみに終宴。

今年度は、8月と12月の開催を予定しています。今後の開催も関連施設への参加を呼び掛けて、相互間の連携が密になるよう交流も含めゴルフコンペの開催を行なっていきます。



## 活動紹介

### 種子島医療センターテニス部

今年4月から広報企画課に、プロテニスプレーヤーを目指している姫野ナルさんが入職され、国内のテニスツアー(2019千葉オープンTTC大会)で初優勝しました。

姫野さんに刺激を受けて、種子島医療センターテニス部を立ち上げました。経験者は勿論、初心者の方も大歓迎ですので、テニスで一緒に汗を流しませんか。

テニスをされたい方は、下記の連絡先までお願いいたします。

#### 練習場所と時間

\*場 所 : 鴨女テニスコート(わかさ公園)

\*時 間 : 土曜日 19:00 ~ 21:00

#### 【連絡先】

部 長 : 古元 康德 (田上診療所)

副部長 : 向井 大輔 (リハビリ室) ・ 田上 直生 (放射線室)

古元、向井が昨年の熊毛地区大会や県民体育大会に出場しました。また、古元が第52回樋口杯テニストーナメント鹿児島大会のベテラン男子55歳シングルスでベスト4になりました。



## 活動紹介

### 3x3 (スリーエックススリー) エクスプローラーズ鹿児島

副院長 田上 純真

バスケットボールは通常ひとチーム5人ずつで点を取り合うスポーツですが、3対3のバスケもあるのをご存知でしょうか。しかも2020年に行われる東京オリンピックの正式種目として男女日本代表の出場が決まっているということ。

3対3で行う3人制バスケットのことを、3x3といいます。正しい読み方があって、スリーエックススリーと言います。通常のバスケットボールコート半分を使い、1つのゴールをお互いに攻めたり守ったりして競うスポーツです。

点数の入り方も独特です。普通のバスケットではゴールに入ると2点で、ゴールから6m75cmの線の外から入ったら3点なのですが、3x3では、それぞれ1点と2点が入ります。

試合時間は10分間で、時間内に多く点を取った方の勝ち、あるいは先に21点取ると勝ちになります。

攻めるのと守るのが目まぐるしく入れ替わるので、見ていてとても分かりやすく迫力があって面白いですが、やってみるとマジできついです。休むひまがないから。

3x3は近年世界中でどんどん人気が高まってきていて、あちこちでプロの大会も開かれており、実は日本でもプロリーグが開かれているのです。その中でももっとも規模が大きいのが、3x3 PREMIER.EXE(スリーエックススリー・プレミアドットエグゼ)とあって、日本だけでなくインドネシア、タイ、韓国などのアジアを含む72チームが優勝を目指して戦っていくリーグです。

私たちはそのPREMIER.EXEに参戦して3年目になる、鹿児島発の3人制プロバスケットボールチーム、エクスプローラーズ鹿児島です。昨年は九州地区で2位となり、高校野球で言うところの甲子園になるファイナルステージへ勝ち上がりました。惜しくも優勝はなりませんが、今年も熱く、激しい戦いに挑んでいく予定です。





あと、このような3x3のプロの試合は実は体育館ではなくて、例えば駅前の広場とか、イオンなどのショッピングモールの中とか、一般の方が普通に行き交う街の中で開催するという、他のスポーツでは見られない大きな特徴があります。入場チケットもないので観戦は無料。通りすがりの人々が、何をやってるんだろー、的な感じで立ち止まってバスケットを間近でみる事ができます。プレイ中はノリノリの音楽をかけ、MCが試合の生実況をおこないます。ボールを追っかけて選手が観客の中に飛び込んだりします。試合をしているコート周りでは、他の選手たちが観客の皆さんと写真を撮ったり、サインしたり、とても近い距離で交流を楽しんでいます。

つまり3x3は、スポーツと音楽、ストリートカルチャーの融合形といった今もっとも新しいプロスポーツのモデルとして注目されているのです。

もし、3x3のようなスタイルのスポーツ文化の要素が、都会だけではなく、例えば種子島のような自然環境の素晴らしい場所で取り入れられたとしたら。サーフィンだけではなく、健全で、新しくおしゃれでカッコいいスポーツカルチャーの発信地、モデルケースとなれたら。鹿児島、あるいは種子島の地方創生のための大きなヒントにつながる可能性は大きいと思います。種子島医療センターはこれからの鹿児島のスポーツ界を支援するべく、エクスプローラーズ鹿児島の協賛を行なっています。

3x3の魅力については説明しても伝えきれない部分があるので、これはやっぱりぜひ、生で、間近で、3x3の熱い試合を観て頂きたいと思います。

近いところでは、令和元年 8月18日(土)8月19日(日)に鹿児島中央駅前アミュ広場で、両日とも13:00から3x3 PREMIER.EXE 西日本+中部カンファレンス 鹿児島ラウンドの開催が決定しています！

お時間があればぜひとも足を運んでいただければありがたいです。宜しくお願いいたします。



## 活動紹介

### 種子島鉄砲ゲートボール大会に参加して

リハビリテーション室 理学療法士 馬場 健大

リハビリテーション室スタッフと研修医の先生方とゲートボール大会に参加させて頂きました。天候にも恵まれ、島民・島外の皆様と一緒にゲートボールを楽しむことができました。今回の大会は島外の皆様も参加されており、たくさんの方が来島されていました。私達はゲートボール初心者であり、ルールもあまり理解していない状態であり、不安だらけの中で試合に臨みましたが、試合を重ねるごとにプレーは上達していき、チームワークも強くなっていったと思います。

試合中も相手チームの皆様からアドバイスを頂いたり、世間話をしたりと会場の皆様が温かく接して下さり、たくさんのコミュニケーションを図ることが出来ました。種子島ならではの光景だったと思います。1日で3試合行い、1勝2敗と負け越しの成績でしたが、試合の勝ち負けよりも、島民・島外の皆様との交流が何より楽しかったことを思い出します。試合観戦中は、皆様のはつらつとしたプレーや活気ある姿を見ることができ、島民・島外の皆様の力強さと凄さを感じた1日となりました。試合後には表彰式も行われ、私達のチームは上位に入る事はできませんでしたが、参加賞も頂くことができました。

この1日を通して、種子島の素晴らしさを改めて感じる事ができました。温かく接して下さった島民の・島外の皆様、本当にありがとうございました。私達も島民の皆様には負けないように業務に努めて参りたいと思います。



## 活動紹介

### 『第3回つながる想いinかごしま』に参加して

参加者 戸川 英子(看護部)・射場 和枝(看護部)・坂口 健(地域医療連携室)

平成30年5月12日(土)13時～20時30分 鹿児島市かんまちイベント広場にて  
今年も参加しました！！『第3回 つながる想いinかごしま』



鹿児島県のがん患者さんご家族のためにスタートしたこのイベントも第3回を迎え、医療機関や各種団体、患者会等と多くの参加がありました。やっぱり、白いバルーンリリースは何とも言えず素敵な光景です。



今年は新たな取り組みとして、『離島在住で治療のため市内に渡る旅費の助成』『医療用ウィッグ購入費の助成』が設けられました。

毎年参加をしている私ですが、今年はある特別な想いを胸に参加をしました。  
父が旅立ち・・・初めて、がん患者遺族として。

これから先も、患者さん・ご家族の気持ちに寄り添える相談員でありたい。

当院から今年は3名の参加でしたが、第4回、5回、6回・・・と、種子島医療センターの『Deep Blue』のハッピーを着たスタッフが1人、2人、3人・・・とイベント広場を埋め尽くすよう、多くのスタッフの参加を期待します。

地域連携室 坂口

## 活動紹介

### サロン 種子島とは

リハビリテーション室 理学療法士 大津留 麻子・作業療法士 田上 めぐみ

当院では月に1回(毎月第3金曜日の14時～16時 当院4階小会議室にて)がん患者様と家族様を対象としたサロンを行っています。

緩和ケア委員会が主体となって月ごとに活動を通して患者様同士が話をすることで情報共有や心のケアができる場を提供しています。サロン会場は小会議室を利用しているのですがお茶やお菓子を食べながらお話をするのでアットホームな空間です。患者様が緊張せずリラックスした雰囲気でお話出来る様に空間づくりも心がけています。季節に合った取り組みとして、春は野菜を植え、冬は書初めなどを行いました。また、薬の副作用のついてや介護保険の話など患者様と家族様が知りたい情報を共有できるようにしています。

平成30年度の10月には、秋のミニ音楽会を開催しました。がん患者様だけでなく入院されている患者様や家族様、外来治療を受けている患者様や子供さんなど当院を利用されている様々な患者様を対象として音楽鑑賞の場を設けました。場所はリハビリテーション室で行い患者様が普段できない体験をすることができ、多くの方に喜んで頂きました。

また12月はしゃぼんラッピングの体験も行いました。しゃぼんラッピングとは患者様がベッド上でも行える手足のケアの事です。手足の皮膚の汚れを落とす事と保湿をすることでリラクゼーションの効果もあります。その回は実際に患者様にも体験して頂きマッサージを行いながら話をしました。簡単にできるケアであり自宅でも行えます。このように様々な体験などの活動を通して楽しんでいただけるようなことや自宅でも役に立つようなことを提供できるように今後も取り組んでいきたいです。



# 平成30年度 廿ロニ種子島 年間予定表

春

日時：毎月第3金曜日

14:00～16:00

場所：4階小会議室

夏

4月20日

野菜を作ろう



5月18日

日焼け防止と

皮膚トラブルについて



6月15日

歯の衛生について



7月20日

介護保険について



8月17日

治療中の食事の話



9月21日

自分でできるマッシャー



10月?日

廿ロニ種子島ミニ音楽会



11月16日

みんなでききたい話(仮題)



12月21日

シャボンラッピング



1月18日

楽しい習字



2月15日

たこ焼きを作ろう



3月15日

薬の話



秋



種子島医療センター

緩和ケア委員会

## 活動紹介

### 転倒転落防止ワーキンググループ

副看護師長 矢野 順子

委員長/高尾尊身

委員/矢野順子、戸川英子、羽生泰子、丸野嘉行、古石綾女、延時彩、牛野文泰、田中真奈美、福島佑、原田寛司

転倒転落防止ワーキンググループでは当院における転倒転落の低減を図るための取り組みを行っています。今後ともスタッフの皆様のご協力をお願いします。

#### <目標>

Ⅲb以上の重症事例を限りなくゼロに減らす

#### <対策>

多職種でのカンファレンスやラウンド時に患者情報の共有を対策の評価の実施

#### <活動内容>

- 1 当院の転倒転落事案の分析、対策を検討する
- 2 患者家族への指導
- 3 職員に対する防止策の指導、啓発活動
- 4 院内ラウンド
- 5 転倒転落データの把握

#### <平成30年度の取り組み>

- ・症例検討会
- ・医療安全研修会参加への声掛け
- ・眠りスキヤンの検討
- ・離床センサー設置の基準について
- ・離床センサー解除の基準について

## 活動紹介

### 摂食嚥下ワーキンググループ

リハビリテーション室 副主任 八木 通博

委員長／高尾尊身

委員／戸川英子、上妻幸枝、下園順子、能野明美、飯田ゆりえ、伊東正子、大中沙織、細山田重樹、渡邊里美、酒井宣政、八木通博、和田楓貴

日本人の死因第3位は肺炎であり(厚生労働省、2017年)、高齢者の方は特に肺炎による死亡が多くなっております。高齢者の方が罹患する肺炎の多くは誤嚥による肺炎であることが明らかになっております。これは口腔内のウイルス等が含まれた食事や水分、唾液などが食道や胃ではなく気管や肺に入る(誤嚥すること)ことで発症します。この肺炎は再発性の高さを特徴としており、当院に入院中の患者様の中にも誤嚥性肺炎によって入退院を繰り返される方がいらっしゃいます。

誤嚥性肺炎の問題をはじめとする食事場面における種々の問題への解決を目的として、そして当院への入院患者様のみならず島内にお住いの方を対象とした活動を行うために、平成30年1月31日より摂食嚥下ワーキンググループを立ち上げることとなりました。当ワーキンググループの特徴は医師・看護師・管理栄養士・臨床検査技師・作業療法士・言語聴覚士など多職種協働で活動する事です。各職種の立場から、まずは院内における食事場面についての意見交換を行った上でさまざまな活動を実施致しました。平成30年度の具体的な活動内容は以下の表にある通りとなっております。

活動名	活動内容
水分トロミ表・口腔ケア一覧表	当院職員が水分のトロミ付けや口腔ケア方法を容易に確認することが可能なツール作成を目的として、上記方法に関する一覧表を作成。表は電子カルテ上で確認することが可能。
食事場面に关わるアンケート	当院職員の摂食嚥下についての認識度を知る目的でアンケート(多肢選択式)を実施。職員が現状を把握するためにアンケート結果は各職種に伝達した。
水分トロミについての勉強会	水分トロミ付けに関する当院職員への技術の伝達ならびに日常の疑問点をその場で回答することを目的として実施。講師を当院言語聴覚士が行い、病棟ごとに実技形式で勉強会を行った。
摂食嚥下パンフレット	当院入院患者様または家族様を対象に、摂食嚥下にまつわる啓発活動を目的として作成。

上記の摂食嚥下パンフレットは当院ホームページより閲覧が可能となる予定となっております。是非ともご覧になっていただき、摂食嚥下に関わる問題について当院職員と皆様が一丸となって考えていただければと思います。

## 活動紹介

### 認知症ケアワーキンググループ

---

リハビリテーション室 理学療法士 門脇 淳一

本ワーキンググループは、各病棟の認知症ケアに対する知識を有する看護師と理学療法士を中心に病棟における認知症患者様の抑制の使用状況の把握や病棟で対応に苦慮した症例の検討などを行っています。昨年は鎮静化マニュアルや職員への簡単な対応マニュアルの作成なども行いました。

認知症は脳の働きが悪くなり、記憶力や判断力が低下します。脳は、呼吸など無意識の活動や学ぶ、運動するといった高度な活動まで、人のあらゆる活動をコントロールしています。認知症になると記憶障害や行動障害がおこり、ごはんを食べたことを覚えていない、自分のいる場所がどこなのかわからない、できたはずのことができなくなるなど、日常的な社会生活や対人関係に支障が生じます。

入院生活では環境の変化で混乱もしやすくさまざまな症状が出やすくなります。病院では患者様の疾患の悪化や治療のためにどうしても安静にしていただかないといけない場面も多くあり、落ち着いて・安全に過ごしていただけるよう事例に応じての対応を検討していきます。また、認知症に関する勉強会も開催していく予定です。



# 認知症と対応の基本

「認知症」とは正常であった脳の知的な働きが、持続的に低下した状態のことです。認知症は症状が進むにつれて、1人で日常生活を送れない場合もあり、家族をはじめ、まわりの人の理解と協力が大切になってきます。

## 1. 認知症の種類

### 【アルツハイマー型認知症】

脳の神経細胞が変性・減少して、脳全体が小さくなってしまう原因不明の病気です。身体的な障害は少なく、認知症状のみが徐々に、しかも確実に進行していくという特徴があります。

### 【脳血管性認知症】

脳卒中が原因となって脳の血管が詰まったり、破れたりすることにより、片麻痺、言語障害などの身体的障害を伴う病気です。脳卒中の発作や進行で症状が悪化します。

### 【レビー小体型認知症】

特殊なたんぱく質のかたまりが脳に生じ、その影響で脳神経細胞が破壊され生じる認知症です。ほとんどの場合、症状もゆるやかに進行します。引き起こされる病気には、他にパーキンソン症候群があり、併発が多くみられます。

## 2. 症状と対処方法

### <幻覚>

症状: 現実にはないものを見たり、聞いたりと訴える。



対処方法: 本人には実際に見えたり聞こえたりしているので、否定せずに本人が安心するような受け答えをしましょう。本人の言動に動揺せず、病気として受け止めることが大切です。

### <妄想>

症状: 実際にはなかったことを事実と思い込む。

対処方法: 間違いを正そうとして妄想を否定するとかえって興奮させてしまいます。物盗られ妄想などは、一緒に探してあげるといいでしょう。

### <徘徊>

症状: 家の中や屋外を一人でさまよい歩く。帰り道がわからなくなる。

対処方法: 他の人にも連絡先がわかるように工夫しましょう。周囲の人にもあらかじめ本人の状況をよく説明し、一人でいるところを見かけたら連絡してもらうように協力をお願いします。また一緒に散歩するのもよいでしょう。

## 活動紹介

### <拒否>

症状:食事や入浴など介護に対して抵抗を示す。

対処方法:その場は無理強いをするのではなく、本人の要求に耳を傾け可能であれば、その通りにしてあげましょう。本人が落ち着いたところで再び声かけを試みてみましょう。

### <興奮>

症状:自分の行動を注意されたり、不快な出来事があると急に怒り出し、暴力に及ぶこともある。

対処方法:慌てずに、落ち着いた対応が求められます。話題や状況を変えるなどしてみましょう。興奮状態が続くようであれば、医師に相談する必要があります。

### <夜間の不眠>

症状:昼間は居眠りしたりボーっとしているが、夜になると眠れなくなり、落ち着かなくなる。

対処方法:昼間の居眠りや運動不足が原因になっていることもあるので、日中は体を動かすようにするといいでしょう。それでも不眠が続くようであれば、医師に相談する必要があります。

### <失禁>

症状:認知症が進むにつれ、トイレの場所がわからなくなったり、尿意を感じなくなりおもらしが頻繁になる。

対処方法:トイレの場所がわからない場合は、ドアに「トイレ」と書いた紙を貼るなどの工夫が必要です。また、時間を決めてトイレに誘ったり、部屋にポータブルトイレを置くのもいいでしょう。

### <不潔行動>

症状:不潔なものを食べる。便器以外の場所で排泄したり、自分の便をもてあそぶ。

対処方法:物の分別、失禁の後始末がわからないためにこのような行為をします。常に身の周りを清潔に保ち、本人の排泄パターンを知っておくようにしましょう。また、本人が排泄物に直接手を触れないような衣服の工夫も必要です。

※以上のことはあくまで基本です。支障のない範囲で本人の話を傾聴し、その人に合った関わりが必要となってきます。また、認知症の方々は表情や感情に敏感です。対応する際は介護側も落ち着いて対応することが必要です。

※認知症の症状に気づいたり対応に困ったときは必ず師長に報告・相談しましょう

※情報を共有し、みんなで同じように対応できることが大切です

引用・参考:[http://www.caremanagement.jp/?action\\_download\\_detail=true&lid=3047](http://www.caremanagement.jp/?action_download_detail=true&lid=3047)



## 活動紹介

### ドクターヘリ搬送

外来看護師長 園田 満治

当院から鹿児島本土に施設間搬送でヘリを利用する件数は増加しています。平成25年は総数18件であったが本年度は58件と3倍となっています。中でもドクターヘリを利用する事例が増えています。ドクターヘリ搬送の増加により鹿児島市立病院ドクターヘリ運航にもご苦労をかけているところです。そこで医師・看護師会で協議し、疾患・病態に応じた適切な搬送手段について話し合いを行いました。今後は2名以上の医師の協議を行い、高速船、フェリー、防災ヘリ、自衛隊ヘリ、ドクターヘリ、海上保安庁巡視船などの搬送手段を有効に活用するようにしたいと考えています。

また、今年度は現場要請のドクターヘリより、4月1例、5月1例、8月1例10月1例、11月1例12月2例、合計7例の患者さんを受け入れ診療しています。

来年度も、島民の皆様が安心して治療が受けられるように、鹿児島の医療機関と協力体制を取り、重症者の施設間搬送が適切に行えるように努力したいと考えます。



## 活動紹介

### 地域包括ケア病棟 ご案内

看護師 平山 靖子

急性期治療を受けられた患者様で、引き続き継続治療やリハビリテーション、退院時の関連サービスの調整が必要な患者様に対して、地域包括ケア病棟入院診療計画書を作成し、ケアを提供していきます。

#### 地域包括ケア病棟とは・・・？

一般病棟(2階病棟または3階西病棟)や他の急性期病院での急性期医療を経て、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者様に対して、継続的な治療やリハビリテーション、退院後必要な介護サービスの調整を行い、在宅(自宅や施設)への退院を目指すことを目的とする病棟です。

#### 地域包括ケア病棟入院の対象となる患者様

- ① 入院治療により状態は改善したが、もうしばらくの療養が必要な方。
- ② 入院治療により症状が安定し、在宅復帰へ向けリハビリテーションが必要な方。
- ③ 在宅で生活するに当たり、療養・介護サービスの準備が必要な方。

#### 地域包括ケア病棟の入院期間について

入院期間については病状に応じて主治医が決定します。退院の日程については患者様、主治医、看護師、リハビリテーション室スタッフで相談して決定します。

ただし、入院期間は最長60日を限度としています。

#### 地域包括ケア病棟退院基準

- ① 急性期治療を経過し、病状が安定している。
- ② 家族の介護や社会的サービス利用により、日常生活が可能である。
- ③ 家族の介護や社会的サービス利用により、現在行われている医療処置が継続できる。

私たち地域包括ケア病棟スタッフは患者様が退院後も住み慣れた地域で、その人らしい生活ができるようケアを提供します。

## 活動紹介

### 新入職員研修

事務長 白尾 隆幸

4月から入職した新入職員25名が参加し、4月2日(月)～5日(木)の4日間、平成30年度新入職員研修を種子島医療センター内で開催しました。



この研修は社会人、医療人としての心構えや知識、接遇やマナーについて基礎的な事を学び、短期間ではありますが一緒に研修に参加する事で同期としての絆を深める事を目的としています。

研修初日は、社会人第一歩としての研修、また同期と初顔合わせということもあり、不安と緊張の中でスタートしましたが、研修がすすむにつれコミュニケーションが図れ、雰囲気も和み、自然と同期の絆が生まれていました。

積極的な姿勢でひたむきに研修に取り組む新入職員の姿は、実に新鮮で爽やかなもので、私自身も『初心』に立ち返る大切さを新入職員から学ばせてもらいました。

研修終了後には、新入職員歓迎会も開催され理事長をはじめ、多くの管理者が参加し新入職員にとって貴重な交流の場となりましたので、4月からの勤務の不安も少し和らいだのではないかと思います。

新入職員には、種子島医療センターの一員として一日も早く職責を果たしてもらえよう願うとともに、私たちが『共に学ぶ』という姿勢で今後の教育に努めたいと思います。



## 活動紹介

### ふれあい看護体験

看護局長 山口 智代子

毎年、「看護の日」制定記念事業の一つとして、希望者に実際の看護体験をしていただき、患者さんとのふれあいを通して看護する事や人の命について理解と関心を深める機会として「ふれあい看護体験」を実施しております。ふれあい看護体験を実施しましたところ、高校生7名の参加がありました。今回の体験を通して将来の職業を思い描くことが出来たのではないかと思います。(平成30年7月28日実施)

(タイムスケジュール)

- 9:00 集合  
病院紹介・医療職の紹介  
記念撮影
- 10:00 職業体験
- 12:00 職員食堂で昼食
- 13:00 職業体験
- 15:00 感想・意見交換
- 16:00 終了



オリエンテーション



↑ 看護師に質問



↑ 処置の見学



↑ シーツ交換



↑ 治療の見学



↑ 処置の介助



↑ 参加者全員で写真撮影



↑ 患者さんとコミュニケーション

看護師は、患者さんの身体と心のケアやそれを行うために前もって準備する事が、大切だと良く分かりました。

それ以外にも看護師の皆さんの仲もとても良くて、チームプレイがいかに大切かも分かりました。

今日は、とても良い経験が出来ました。本当に有難うございました。

急性期の病棟では、患者さんの回復に合わせてケアを行っていて、退院後の生活をより良くするために、重要な役割を担っていることもわかりました。そして、仕事をこなすだけでなく、患者さんに声かけをしながらケアをする看護師さんと、その言葉に笑顔で答える患者さんの姿を見て、コミュニケーションの大切さを感じました。

今回の体験で、種子島の医療現場を肌で感じ、これからの課題なども教えて頂く事ができたので、それを将来に活かしていきたいと思います。

外でたくさんの知識を吸収して帰って来て、地域医療に少しでも貢献できたらと考えています。

最初は、寝たきり状態の患者に、どう声をかけてよいか分からなかったけれど、患者の手足をタオルでふくケアを体験させていただいた際、患者に触れたことで、患者との距離がいきなり縮まった気がしました。

手を握り返し「ありがとうね。」と言ってくれたことは、とても嬉しく、私の看護師を目指す志がより大きなものとなりました。

私には、地域の医療に貢献するという目標があります。今回の体験で学んだことを離島出身である事を最大限に利用して、これからの医療を発展させていきたいです。

私は、病児保育士を目指しています。普通は、保育士の免許だけでもなることの出来る職業ですが、私は看護師になり看護の体験を積んだ保育士のエキスパートになりたいです。しかし、まだ進学は決まっておらず、看護師さんにも相談させていただく機会をいただきました。

みなさん、私の話を親身になって聞いてくださり、とても嬉しかったです。そして、看護師って良いなあと思えました。

## 活動紹介

### 平成30年度 リハビリテーション職業体験&セミナー

リハビリテーション室 作業療法士 濱添 信人

リハビリテーション室では、昨年度に引き続き、島内の高校生向けリハビリテーション職業体験&セミナーを開催しました。今年もリハビリテーション職についての講義セミナーや各専門職の模擬体験、実際の治療見学、レクリエーション活動を体験して頂きました。各専門職での模擬体験では、車椅子操作体験、義肢装具体験、障害体験、評価の体験、作業療法での革細工体験など多くの体験をしてもらいました。また、レクリエーション活動では、新聞紙でのエコバック作り、季節の飾り作りなどを患者様と一緒に創作してもらいました。参加した高校生の中には、リハビリテーション職への進路を考えてくれている方もおり、進路を考える上での良い機会になったかなと思います。今後もリハビリテーションについてもっと知ってもらえるように来年度も引き続き開催していきたいと思っています。

日時:第1回 平成30年10月6日(土)  
第2回 平成30年12月22日(土)

参加者:第1回 種子島中央高校生1名(3年生)  
第2回 種子島高校生7名(1年生2名、2年生1名、3年生4名)  
種子島中央高校生2名(2年生2名)

#### 《当日のスケジュール》

- 9:00 集合、オリエンテーション、リハビリテーションセミナー
- 10:00 作業療法体験、理学療法体験、言語聴覚士体験
- 12:00 職員食堂での昼食
- 13:00 セラピスト見学
- 15:00 レクリエーション活動参加
- 15:30 感想、意見交換
- 16:00 終了





## 活動紹介

### ボランティア受け入れ報告

看護局長 山口 智代子

種子島医療センターでは、地域に根ざした病院として、地域住民などによるボランティアを積極的に受け入れ、専門性を生かしたボランティア活動を行ってもらっています。

ボランティアの方々の笑顔とふれあいにより、患者様の心の安らぎがもたらされ、大きな支えになっています。いつも有難うございます。

#### クリスマスキャロル(西之表基督協会)



クリスマスイブに西之表基督協会の皆様が、素敵な讃美歌を届けて下さいました。そして、皆様の回復と健康をお祈りしていただき、池田先生から手作りのコマのプレゼントをいただきました。毎年、有難うございます。

院内保育所の1～3歳児が、可愛い衣装を着て、元気な歌とおゆうぎを披露してくれました。上手に踊ったり泣き出したり、可愛いクリスマス会でした。



保護者の皆様とハイポーズ♪

#### おゆうぎ会(院内保育所)



#### 七夕事業所訪問(めいろうこども園)

めいろうこども園の園児達が、七夕飾りを持って訪問して下さいました。「お菓子屋さんになりたい。」「警察官になりたい。」沢山の夢が詰まっていました。

“みなさんが、元気に大きく成長しますように☆”



## 活動紹介



### ミニ音楽会

種子島ウインドアンサンブルの方々が、リハビリ室で素敵な曲を演奏して下さいました。この日に合わせて、車椅子に座る時間を少しでも長く出来るように、リハビリを頑張った患者様もいました。皆さん一緒に歌いながら癒しのひと時となりました。

ミニ音楽会を有難うございました。



### 季節を感じる美しい花々

種子島医療センター正面玄関や踊り場、トイレ等いたる所に、自宅で丹精込めて育てた花々を美しく飾って頂いております。

患者様や来訪者に「花々を見ると季節を

じる。」「とても癒される。」と喜んでいただいております。

いつも美しい花をご持参いただきまして有難うございます。



野元かおりさん

上妻芳江さん



戸川英子さん

加世田佳子さん



名越駿三さん



## 活動紹介

### 平成30年 現地施設見学会を開催して

リハビリテーション室 部長 早川 亜津子

#### <はじめに>

当院の療法士の7割は島外出身者です。離島のリハビリテーション医療に従事したいと考える療法士や、療法士の卵に当院のことを知ってもらうために昨年度より、現地施設見学会を開催しています。

今年度は、種子島の病院へ大切な子どもさんを就職させるご家族様に、少しでも安心して当院を選んでいただけるようにと、ご家族様も参加可能な回も企画した。

#### <対象者>

平成31年度PT・OT・ST養成校卒業予定者または、有資格者。

#### <開催日と参加者数>

	開催日	時間	参加者	ご家族
第1回	7月28日	9時30分～14時30分	4名	3名
第2回	10月26日	9時30分～14時30分	2名	0名

#### <内容>

パワーポイントを使用し施設概要紹介  
 実際にリハビリテーション室にて療法士の治療場面を見学  
 ランチ交流会  
 院内施設見学  
 病院周辺案内

#### <結果>

上記、施設見学会では6名の療法士の卵たちと、3名のご家族様の参加があった。そのうち、5名の参加者が採用面接を受験するに至った。

また、上記見学会以外で個別での施設見学も受け入れを行っており、7名の見学者を受け入れた。そのうち、4名が採用面接を受験するに至った。

今回、上記施設見学会へ参加したご家族様の声としては、「種子島へ行きたい子どもの反対をするためについてきたのですが、残念ながら見学して反対する要素がなく、子どもが種子島に行きたいという気持ちがわかりました」と、とても有難いお言葉をいただきました。

#### <今後の展望>

次年度は、施設見学会の回数を増加するとともに、ご家族様の参加も継続していきたいと考えます。

実際に種子島へ来て、島の雰囲気や島民の優しさやあたたかさに触れ、純粋に「種子島へ来たい」「ここで働きたい」と思ってくれる未来の仲間が多くいます。

今後は、島外出身者はもちろんですが、島内出身者の確保も必須で、種子島で育った若者たちにリハビリテーション職に興味をもって貰える活動を更に広めていきたいと考えます。

# 活動紹介

## 報道・広報関係

**宇宙に一番近い島 種子島**  
再び、人生の波に乗り、飛び立つ場所

【回復期リハビリテーション病棟】

- 病棟数 48 棟
- 脳卒中片麻痺患者の治療に促進回復療法「川手法」を取り入れ、最大限の機能回復に取り組みしています。
- 入院中から、医療機関外（自宅）で日常生活に関する動作練習を実施しています。
- 地域医療・介護福祉に行政が「顔の見える関係」を築きやすく、スムーズに医療介護サービスを受けることが可能です。

種子島医療センター  
〒960-0202 鹿児島県種子島市高島町46番地  
TEL:099-2-4961 FAX:099-22-1333  
E-Mail: info@tanegashima-cs.jp  
URL: www.Tanegashimacs.jp

### 週刊新潮

平成30年の5月3日・10日・ゴールデンウィーク特大号  
(病院選びの重要性、回復期リハビリテーション病棟特集)

種子島で働いてみませんか？

種子島医療センター（鹿児島県）  
副理事長 山口節代子  
島の医療従事者確保が難しく切実な状況の中、当院では、都市圏で働きながら医師向け就職説明会などに参加しています。看護師資格を有し、女優としても活躍している松原節代さんを昨年11月から看護PR大使に任命し、種子島の自然の豊かさ・きれいな海・島の人の温かい人柄などを伝え、サーフィンを楽しみながらキャリアアップできる島の魅力を発信する活動をしています。

松原さんは、種子島が舞台の映画「ライフ・オン・ザ・ロングボード 2nd Wave」(2019年春に公開予定、主演：吉沢悠さん)に看護職で出演するために1カ月半勤務しながら、島の人と関わり島の人の温かさ・やさしさに触れ、種子島で一人でも多くの医療従事者が増えることを願って日々活動しています。

看護職の働き方改革が叫ばれている中、自然豊かな島・マリンスポーツの盛んな種子島で、ライフ・ワークをエンジョイしてみませんか。

節代さん  
節代さんPR大使に就任した松原さん

### 日本看護協会機関紙

協会ニュース Vol.617  
平成31年3月号

みなみネット  
2016年(平成30年)11月13日 大塚日

種子島医療Cの看護PR大使  
女優・松原さん委嘱

鹿児島市の島嶼部、種子島。島の医療従事者確保が難しく切実な状況の中、当院では、都市圏で働きながら医師向け就職説明会などに参加しています。看護師資格を有し、女優としても活躍している松原節代さんを昨年11月から看護PR大使に任命し、種子島の自然の豊かさ・きれいな海・島の人の温かい人柄などを伝え、サーフィンを楽しみながらキャリアアップできる島の魅力を発信する活動をしています。

松原さんは、種子島が舞台の映画「ライフ・オン・ザ・ロングボード 2nd Wave」(2019年春に公開予定、主演：吉沢悠さん)に看護職で出演するために1カ月半勤務しながら、島の人と関わり島の人の温かさ・やさしさに触れ、種子島で一人でも多くの医療従事者が増えることを願って日々活動しています。

松原節代さん  
種子島医療センター  
副理事長 山口 節代子

南日本新聞 平成30年年11月13日

Vol.617 Nursing Association  
種子島医療センター 看護PR大使の紹介

種子島医療センターの看護PR大使として、女優の松原節代さんが委嘱されたことが報じられています。

松原節代さん  
種子島医療センター  
副理事長 山口 節代子

### 鹿児島県看護協会

看護かごしま 2019 Spring Vol.175

種子島医療センター 看護PR大使の紹介

種子島医療センターの看護PR大使として、女優の松原節代さんが委嘱されたことが報じられています。

松原節代さん  
種子島医療センター  
副理事長 山口 節代子

南日本新聞 平成30年12月12日

「広い視野」呼び掛け

種子島医療センターの看護PR大使として、女優の松原節代さんが委嘱されたことが報じられています。

松原節代さん  
種子島医療センター  
副理事長 山口 節代子

南日本新聞 平成31年1月31日